

防災減災学術連携委員会（第25期・第9回）

議事要旨

日 時：令和4年10月6日（木）9:00～10:30

会 場：Zoom ミーティングを用いたオンライン会議

出席者： 米田雅子（委員長）、安村誠司（副委員長）、田村和夫（幹事）、永野正行（幹事）、  
畝本恭子、大西隆、小池俊雄、齊藤大樹、竹内徹、平田直、森口祐一、  
山本佳世子、吉原直樹、（13名）

欠席者： 今村文彦、菊地優、鈴木康弘、高橋良和、寶馨、中村尚、目黒公郎、  
山本あい子、若尾政希（9名）

事務局： 齊藤美穂、松本拓馬

議 題：

- 1) 前回議事要旨案の確認
- 2) 10月22日 日本学術会議公開シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化—防災科学の果たす役割」について
- 3) 2023年のシンポジウム等の企画について
- 4) 防災減災学術連携委員会の継続性と次期の常設設置の要望について

配付資料：

資料1：防災減災学術連携委員会（第25期・第8回）議事要旨（案）

資料2：第14回防災学術連携シンポジウム\_\_プログラム

資料3：防災学術連携体特別シンポジウム\_\_プログラム

資料4：過去の防災学術連携シンポジウム一覧表

資料5：【設置提案書】第25期・防災減災学術連携委員会

資料6：第182回総会討議参考資料の抜粋

資料7：防災学術連携に関する会議体の常設設置の要望書（案）

議 事：

1) 前回議事要旨案の確認

- ・ 田村幹事より、資料 1 を用いて、前回議事要旨案の説明があり、異議なく承認された。

2) 日本学術会議公開シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化—防災科学の果たす役割」について

- ・ 永野幹事より、資料 2 と資料 3 を用いて、10 月 22 日 16 時 30 分から防災推進国民大会のセッションとして開催される第 14 回防災学術連携シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化—防災科学の果たす役割—」及び同日の 18 時 15 分から開催される防災学術連携体の特別シンポジウム「自然災害を取り巻く環境の変化—防災科学の果たす多様な役割—」について、説明があった。

3) 2023 年のシンポジウム等の企画について

- ・ 米田委員長より、資料 4 に記載の過去の防災学術連携シンポジウムテーマを参照しつつ、
- ・ 2023 年には、4 月に気象災害関係、7 月に関東地震 100 年関係のシンポジウムを開催することの提案があった。また、災害時等の緊急時にはその対応もあり得ること、日本学術会議内の国際的な防災に関わる活動における、関東大震災 100 年の関連企画との関係も考慮する必要があることの説明もあった。
- ・ 永野幹事より、防災学術連携体での関東地震 100 年企画の検討状況について説明があった。4 テーマ程度に分けてシンポジウムを 7 月に開催する方向とし、別途学協会等からの寄稿をまとめる冊子の発行も検討している。
- ・ 小池委員より、持続会議にて関東大震災 100 年の関連企画として、9 月に国際会議を開催する予定であること、1 年間を通して大災害をいろいろな観点から捉えていく活動も検討中であることの説明があった。

以上の説明に関連して、以下の意見があった。

- ・ 気象災害と地震災害は重要な災害であり、これらを対象とする方向性はよい。
- ・ 日本学術会議の国際的なデビューでは、地震研究は重要な役割を果たした。「学術の国際交流と地震研究」というテーマの活動も考えられる。
- ・ 気候変動に伴う災害に関わる分野での国際的交流もあり得る。
- ・ 気候変化によるリスクは G サイエンスのテーマになる見込み。来年 3 月 7～8 日会議が開かれる予定。

- ・ 関東大震災から 100 年の年を迎えるに当たり、各学術団体で計画・発信されている内容の情報を、日本学術会議にて整理してそれらの情報を集約した特設ページをつくとよい。
- ・ 以上の議論を踏まえ、防災学術連携体のネットワークも活用して、関連学協会の関東大震災 100 年企画行事の情報を幅広く収集してとりまとめる WG を立ち上げることとなった。リーダーを大西委員、幹事を平田委員と米田委員長にお願いする。また、情報を掲載する特設サイト（日本学術会議、防災学術連携体）についても、事務手続も含めて今後検討する。

#### 4) 防災減災学術連携委員会の継続性と次期の常設設置の要望について

- ・ 米田委員長より、資料 5、6 を用いて、防災減災学術連携委員会の継続設置に関する経緯と、日本学術会議における分科会等の委員会活動の見直しの案が検討されている状況について説明があり、資料 7 に示す防災減災学術連携委員会の常設設置に関する要望書を提出したい旨の提案があった。
- ・ これに対し、大西委員より、この要望書を提出するとともに、日本学術会議内の手続や今後の動向を踏まえて、具体的な方向を検討していくのがよいとの意見があった。
- ・ 議論の結果、本要望書を提出することとし、文案について修正意見があれば委員長に連絡する。また、文案の一部修正は委員長一任とすることとなった。

#### 5) その他

- ・ 2023 年 4 月頃には、気象関係のテーマとしたシンポジウムを公募方式で開催することとし、計画案をメールにて委員の意見をいただきながら進めていくこととする。
- ・ 次回委員会は 2023 年 1 月頃に開催する。

以上